

第19回 参加者の声

【学部2年生】

- ・今まで講演していただいた先生よりも身近に感じた。最近、授業が難しいと感じていたが、まずは3年間頑張りたかった。理学部や工学部の友人と話していると、同じような勉強をしていて、薬学部の特長は何なのかと思っていたが、物理・化学・生物やその境界領域を学んでいるのが、大きな強みなのだと気付いた。
- ・生物物理学という自分にとってはあまり聞いたことのない学問について聞き、とても面白そうな学問であると思ったと同時に、基礎学問の大切さも理解できた。これは、他の学問においても通ずるものがあるので、意識して勉強していきたい。
- ・今の自分でも理解しやすく、とても面白かった。座学ではあまり勉強ができなかったという須藤さんが、手を動かして研究していくうちに興味のある事(テーマ)が見つかり、日本各地やアメリカにまで行って研究をするまでになったというのを聞き、将来が明るくなった。就職が決まっていたのに、それをやめて大学に残る決断をしたのは、とてもすごい。それくらい研究が好きになれるというのが、研究への愛だと思った。私はもう少し将来を真剣に考えるべきだと思った。
- ・今回の話は、今までと違って身近に感じた。今しかできないこと(遊び回ったり)をしていきたい。
- ・光によって神経活動を制御するという話がとても興味深かった。発展的な内容が多かったが、今、講義で学んでいることも度々話にでてきて、やはり将来自分で研究をしていくためには、今の勉強をしっかり身につける必要があるのだと思った。一見、薬学に関係のなさそうなことでも、自発的に興味をもって取り組みたい。
- ・須藤さんは、自身のことを「超劣等生」と言っていたこともあって、今までの講演よりもより身近に面白く話を聞いた。タンパク質の色がとてもきれいで、実際に実物を見れなかったのが残念。薬学部生としての強みや、将来望まれることなども話してくださり、今習っている基礎的な学問を勉強するモチベーションが上がった。
- ・教科書に書いてあることが間違っているということについて、小学校の教科書の方が、大学の教科書よりも確度が高いということに驚いた。確かに、小学校の教科書の方が基本的なことしか載っていないので、間違いの可能性も低いのかなと納得した。スライドで見たタンパク質の色がとてもきれいだった。
- ・生物・物理・化学といった自然科学研究に、分野の垣根はないという話がとても印象に残った。自分は生物に対して苦手意識が常にあったが、そのような垣根にとらわれることなく幅広い知識を身につけようと思った。
- ・基礎科学研究の多様性や面白さ、重要性や、化学・生物・物理をはじめ広い分野を学ぶ薬学部生は、創薬研究、薬剤研究だけでなく基礎科学研究の道にも進めるということがわかった。ロドプシン分子の多様な機能の話や、光で細胞を操作できるという話など、初めてきく内容ばかりでとても興味深く面白かった。色々なことに興味を持ったり、変化に気付いたりするには、色々な分野の学問を学んだり、経験して知識を身につけないといけないと思った。
- ・生物物理という学問があることに驚き興味を持った。製薬をするために、一段下がって基礎研究をしているということで、基礎研究の大切さを知った。
- ・ただ興味がある、面白そうだから、という理由でたくさんの方のことを研究してみるというのもありだとわかった。
- ・話が今までより理解しやすく身近に感じた。大学1~3年まで遊んでいた人が、4年生で急に研究に対して真剣に向き合えるというのは、よくわからなかった。自分も4年生で切り替えられれば良いと思う。
- ・「生物を知るためには、物理や化学を理解する必要がある」「薬学は自然科学の多様な分野を網羅している」という言葉に何となく共感できた。学問一つ一つを楽しめば、自分のやりたいことが見つかるんじゃないかという、前向きで楽観的な気持ちになれた。
- ・須藤さんが研究されているロドプシンについての研究はとても興味深かった。薬学部を卒業すると薬学系の研究しかできないものだと思っていたが、今日の講演で様々な分野の研究ができるということを知った。これから、広い自然科学の知識を身に付け、人との出会いを大切にしながら、学生生活を送っていこうと強く思った。
- ・今回の話は、将来博士課程に進んで研究活動することが夢である自分にとって、非常に参考になり、指針を与えてもらった。とても楽しそうに研究内容について話す須藤さんを見ていて、早く研究をしたいと強く思った。
- ・今までの講演会は、薬学の基礎の基礎しか学んでいない自分にとって、少し敷居が高いように感じていたが、須藤さんは共感しやすく親しみやすい講演をしてくださり、基礎研究の分野もすごく魅力があつていいなと思った。また、自分がやってみたい研究分野は、こういう視点から見つけ出せるんだということがわかり、大学で研究テーマを見つけてこなしていくなんて自分には無理なのではと思っていたが、

とても勇気づけられた。また、薬学部で広く多分野について学べるのは、将来強みになると実感できた。

- ・薬をつくるためには基礎研究が重要であり、分野にこだわらず学んでいくことが大事であることがわかった。薬学部は自然科学の講義をほぼ全て網羅しているので、とても恵まれた環境にいるんだと思った。2年生になって勉強に対するやる気が下がっていたけれど、しっかり基礎を学ぶ必要を改めて自覚したので、頑張りたい。
- ・研究には基礎科学の知識が重要であり、有意義な研究をする為にも、今の授業をしっかり受けるべきだと思った。
- ・研究の話は難しかったが、学部生の頃の話など今の自分と近い話が聞けて良かった。先輩方が学生の頃、どんな気持ちで勉強をしていたのかもっと聞いてみたい。
- ・話が面白かった。わかりやすかった。
- ・薬学部は、基礎的な学問を広く学ぶことが出来る良い環境であることが改めてわかった。須藤先生のように、理学部や工学部などで基礎研究をつきつめていっても、最終的には薬学の研究をすることもできるとわかった。
- ・最近まで限られた生物種しか持っていないと思われていたロドプシンが、この10年で様々な生物が持っていることがわかったりと、非常に興味深いと思った。
- ・ロドプシンは、今まで何度か講義で聞いたことがあったが、一口にロドプシンと言っても、様々な吸光度を持つものがあり、とても面白い。
- ・須藤さんが、大学の授業がつまらなかったけど、先生との出会いや研究への興味によって、研究に対し熱心になったと聞き、自分も人との出会いを大切に、今、授業がつまらないと感じても少しでも興味を持つことが重要だと感じた。
- ・とても面白かった。私も勉強にやる気が出ず、他の人と比べてモチベーションが低いと感じていたが、焦らずにやりたいことを楽しみながら将来の進路を決めていきたい。勉強だけでなく、思いきり遊ぼうと思った。というより勉強を遊びながらやろうと思った。このような講演会では、雲の上のような先生方がよく来られるが、須藤先生が私たちを激励しに来てくださったということで、とても親近感がわいた。
- ・研究者になる人は学部生時代から優秀な人だけだと思っていたが、座学が嫌いでも実験が楽しめること、研究者として成功できることがわかり、この先の実験が心配だったので安心した。
- ・薬学部だけでなく、色々な学部を渡り歩いた経験のある方からの話で、参考になる点が多かった。基礎研究をしっかり学び、幅広い興味と視野を持ち研究に活かしていきたい。
- ・博士課程や研究者について聞くことができてよかった。
- ・生物物理系の研究をしている方の話を聞く機会はあまりなかったので、楽しかった。私はNMRなどを扱う機器分析学が苦手だが、きちんと勉強しなければと思った。
- ・今までロドプシンの視覚に関する機能しか知らなかった。特に驚いたのは、イオンの流出、流入を光によって制御するという、チャンネルロドプシンというものが存在するというので、これは臨臨床的にも色々と応用できるのではないかと思う。
- ・基礎研究の充実が、薬学の充実につながることを実感した。
- ・疑問を感じるため、興味をもつために、知識をもつという見方の変えた考え方に納得し、モチベーションが高まった。
- ・将来を考えると、薬の研究という道しか見えていなかったが、今回の講演で道が一つ増えた。分野を超えた基礎研究とその応用による薬学研究をやってみたい。有意義な時間だった。
- ・教科書に載っていることは真実とは限らないという話に感銘を受けた。教科書は絶対だと思っていたが、疑ってかかることで、新たな発見に気付くこともあるのだと思った。
- ・薬学部は、かなり基礎的なサイエンスの講義が多いと感じていたが、それが他の学部にはないアドバンテージになってくるとわかりモチベーションが上がった。須藤先生自身の経験を率直に語っていただき、とても楽しく参考になった。
- ・光を照射することで性質が変わるタンパク質に興味を持った。薬学が幅広い分野にわたる学問なので、様々な研究の世界を知ることができるのはすごく良い。
- ・知識を吸収していけば、おのずと興味を持てることが見つかると思い、幅広い分野に取り組みたい。今日は比較的年齢の近い方のお話聞いて、大学生活におけるモチベーションの持ち方など、色々参考になった。
- ・3年ごとに新しいことに挑戦してみるというのは良いことだと思った。今は言われたことをこなすのに精一杯というような状況だが、自分

のやってみたいことにどんどん手をだしてみるのが大切だと思った。

- ・薬に関係する学問だけでなく、基礎となる学問や英語なども研究するうえで、とても重要であると感じた。
- ・私たちと年の近い方の講演で、参考にすることが多かった。研究内容は専門的すぎて、理解し難い所が多々あったが、先生のロドプシンに捧げる情熱は十分に伝わってきた。研究者に必要な資質は、知識ではなく、興味を持つことだとおっしゃっていたが、それを感じることができた。
- ・光を用いたタンパク質の形状を変化させたり、増減させたりすることが可能であると、創薬の面に限らず、食品等他の分野での研究も、スムーズに行うことができるようになってしまった。
- ・光という全く薬学と関係のなさそうなことが、最終的に薬学につながると知り驚いた。
- ・光によってタンパク質がつくられるなど、光による制御ができるのが面白い。光によって薬物を操作し、目的の部位に効果的に届けたりできたらすごい。
- ・須藤さんは、一貫してタンパク質の光生物物理学的研究をされているのに、幅広い教養を持たれていることに驚き、研究を進めていくには幅広い分野の知識が必要であり、そのためにも基礎的な専門科目に真剣に取り組まなければならないと実感できた。
- ・冒頭の、色々な人に会い、3年間はとりあえず頑張ってみようという言葉で、非常にやる気が出てきた。
- ・早く実験を始めたいと思った。
- ・生物をよく知るのに、化学も物理も知らないといけない等の話にとっても共感できたので、もう一回やる気をだして、毎日の講義を頑張りたい。
- ・やると決めたら3年間頑張り、3年ごとに新しいことを始めるということは、これからの自分の目標にしたい。光で細胞を操作するということは、今まで聞いたことがなかったので、面白かった。
- ・基礎研究と言われても漠然としていて、どれくらい学んだ内容が活かすことができるかわからないが、少しでも興味を持てるようなものを見つけられたら良いと思う。
- ・薬学部を出て基礎研究の道に進むということが、今まであまり想像できなかったのですが、この講義でわかったような気がした。また、興味を持つために研究をするという言葉に感銘を受けた。今までは興味のあることを他の人たちが研究をされていて、私は何をしたいかわからなかったで、とても参考になった。
- ・2年生になってから、授業がつまらなくなり余り勉強しなくなったが、須藤さんが言ったようにとりあえず3年間頑張ってみようと思う。
- ・今まさにやる気があまり無く、勉強に積極的になれていないので、何か興味を持てることを遊びでも良いから見つけて、モチベーションを上げようと思った。私も実験中のカラフルな溶液等が好きで、カラフルなタンパク質を見てにやにやする気持ちがよくわかった。
- ・今までは、ロドプシンの作用について、幹細胞の光の強度の感知しか知らなかったで、様々な色のロドプシンがあると知り、大変興味深いと思った。
- ・光受容タンパク質(ロドプシン)に関する研究は、ロドプシンのチャネル機能、視覚、転写調節など、様々な機能が光によって誘起されるという事実に、様々な研究につながる可能性を感じた。
- ・須藤さんは、研究が本当に好きなんだなと思った。自分も院生の時に色々な所に行きたい。教科書を疑うというのが、とても斬新だと思った。これからは疑う心を持って勉強しようと思った。
- ・光で治すという斬新な考え方がとても印象に残った。確かに人間の体内には光はないので、光を当てるとその部分で効果を得られる薬ができれば、選択的で効果的だと思った。
- ・今までの講演で最も世代に近い方の話を聞いて、本当に為になった。身近な話(学部の勉強、必要な力など)が多くて、日頃の勉強をもっと頑張ろう、他の教養も身に付けようと思った。
- ・年齢が若い方だったので、自分たちに近い存在であると感じた。薬学は幅広く自然科学の分野を網羅しているのが強みだということなので、苦手な分野でも何かしら工夫して興味をもって取り組めるようにしていこうと思った。
- ・毎回、講演される方のことを「この人たちは大学生の時にトップレベルに頭が良かったんだろうな」と思っていた。しかし、今回は自分たちに自信を持たせてくれるような講演であり、面白かった。大学生活、後悔のないよう今を頑張りたい。
- ・今回の講演は、普段と違った雰囲気を楽しめた。自分はやる気が低迷気味で心配だったが、色々なことに興味を持てるよう、もっと気軽に日々を過ごしてみようと思う。

- ・今回の講演は、薬学部にいる今の自分の状況は、やろうと思えば色々な分野に挑戦できる立場にいるということを考えることができ、とてもモチベーションが上がるものだった。

【学部2年生以外】

- ・薬学研究が幅広い分野を網羅していることを知り、須藤先生のように他学部の研究も理解できると思うと、それも楽しいと思った。
- ・ロドプシンの話は少し難しかったが、興味深い話が多く楽しかった。納得できる話が多かった。